

子育ての悩みに寄り添う絵本
子育てと絵本 vol.30

こんな時こんな絵本 その2 「生き物を大切にしてほしい」

「子どもには生き物を大切にしてほしい」という思いは、自分自身を大切にしてほしいという保護者の率直な願いです。子どもは本来、人も動物も昆虫も、生き物が好きです。生き物は、何か働きかけたら返ってくる、やりとりがあるという応答性があります。

ねこや犬などペットとの情緒的な応答性は、お互いにとって生きていく上でかけがえないものです。動物は、触ったり抱っこすることで、重さや暖かみなどを感じ取ることもできます。命の愛おしさ尊さを知ることができます。

絵本「なまえのないねこ」。ぼくはねこ。なまえのないねこ。だれにもなまえをつけてもらったことがない。名前って、人から幸せを願って付けてもらう自分だけのもの。子どもたちは主人公のねこの表情や目の輝きに変化を見いだすことでしょう。

「ずーっとずっとだいすきだよ」。エルフィーは、せかいでいちばん、すばらしい犬です。ときどきわるさをすると家族はすごく叱った。でもみんなはエルフィーがだいすき。すきならすきと言ってやればよかったのに。ぼくは言ってやったよ。毎日「ずーっとだいすきだよ」って。

言わなくても分かることがあるかもしれないけれど、言わなくては分からないこともあります。

言われてうれしい言葉、安心する言葉は口に出して伝えたいものですね。「だいすき」って伝える人も「すき」が倍増します。

子どもは大事にされていると実感することで、人や動物を大切にすることができます。そして大切にするためには知ること必要。動物を知ることは命を知ることです。

身近に死を感じたり直面することが少なくなった昨今、実際に関わってきた生き物の「生と死の対比」という体験も貴重です。

子どもたちには、あなたと同じようにねこにも犬にもすべての生き物には、大切に思っているお母さんお父さんがいるんだよと伝えていきたいものです。

今回ご紹介する絵本



なまえのないねこ
文 竹下 文子
絵 町田 尚子
小峰書店



ずーっとずっと
だいすきだよ
文・絵 ハンス・ウィルヘルム
訳 久山 太市
評論社

子育てひろっぱ「めぐみ」代表 弘田 恵子

1998年から20年間高知市内の「めぐみ保育園」で園長を務め、現在は妊娠中からの悩みサポートを行う。助産師、看護師、保育士、幼稚園教諭(二種)。絵本専門士(国立青少年教育振興機構認定)。絵本講師(NPO法人「絵本で子育て」センター認定)。上級睡眠健康指導士。アンガーマネジメントファシリテーター

